

授業科目名	対象学科・専攻	年次	期別
国語科指導法 Teaching Methods of Japanese Language	児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	前期
科目	施行規則に定める科目区分又は事項等		
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修 / 選択必修	担当教員名
			和田征文
講義	2	必修	担当形態
			単独
全体目標及び概要			
<p>授業を実践するに際しての指導事項との関連を踏まえた教材分析上の観点を学ぶ。 典型的な教材を例に、教材の構造と内容の把握、精査と解釈について実践的に学ぶ。 [知識及び技能]と[思考力、判断力、表現力等]の二つの柱を意識して授業を設計する。 「言語による見方・考え方」を念頭に置いた授業実践のあり方を、具体的な方法として身に付ける。</p>			
一般目標及び到達目標			
<p>(1) 「言葉による見方・考え方」を軸に授業を構想する要件を理解する。</p> <p>1) 教材に対する学習者の初発の捉え方を分類・考察することができる。</p> <p>2) 学習者の初発の感想を基に、教材の中核に迫る「問い」を予測することができる。</p> <p>3) 学習者相互の対話を成立させる教材のキーワードを捉えることができる。</p> <p>4) 授業の流れを「板書計画」という形で構想することができる。</p> <p>(2) [思考力、判断力、表現力等]を育成することに繋がる教材の捉えができる。</p> <p>1) 対象をどういう言葉で表現しているかで教材の特質を説明できる。</p> <p>2) 話し手や作者・筆者がなぜそのような表現をしているかその意図が説明できる。</p> <p>3) 伏線やオノマトペ等の表現技法で登場人物のどういう状況を表しているか説明できる。</p> <p>4) 文章の論展開のためにどういう工夫をしているか表現の仕方を基に説明できる。</p> <p>(3) 「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を設計することができる。</p> <p>1) 「導入部」における「問い」を学習者に意味づけできる。</p> <p>2) 「展開部」における「対話」が成立するための条件を整えることができる。</p> <p>3) 授業全体の学習の流れが学習者に理解できる「板書」を作成することができる。</p> <p>4) 学習過程での「形成的評価」で様々な手立てを工夫することができる。</p> <p>5) 「終末部」における「授業評価（自己評価）」を具体的に講じることができる。</p> <p>(4) 「言葉による見方・考え方」が働いている学習状況を学習者の姿で捉えることができる。</p> <p>1) どの言葉（表現）で話や文章が理解できたとしているのかを掴むことができる。</p> <p>2) 話や文章の中で言葉の価値に気付いた発言をしているか掴むことができる。</p> <p>3) 既習の言葉に新たな意味を見出した発言をしているか見定めることができる。</p> <p>4) 「振り返り」の中で誰の言葉で考えが深まったとしているかを見取ることができる。</p>			

授業内容と進め方		
回数	授業内容	到達目標の番号
1	教材研究って何？①—新見南吉「あめだま」の構造を考える。	(2)—1), 2)3)
2	教材研究って何？②—新見南吉「あめだま」における「問いづくり」を中心にして「アクティブ・ラーニング」を体験する。	(1)—1), 2) (2)—2)
3	「国語」を教える意味？—国語科の目標、三つの構造を復習する。	(1)—3) (2)—1) (3)—3) (4)—2), 3)
4	低学年教材「お手紙」—登場人物の背負っている表現を掴む。	(2)—1), 2), 3)
5	低学年教材「どうぶつの赤ちゃん」—「説明」とは何かを掴む。	(2)—1), 2), 4)
6	中学年教材「ありの行列」—キーワードで段落相互の関係を掴む。	(1)—3) (2)—4) (4)—1)
7	中学年教材「つり橋わたれ」—心情・情景の「変化」を掴む。	(1)—3) (2)—3) (4)—2)
8	高学年教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」—「問題提起」の答えはどこから文章全体の論理の展開の仕方を掴む。	(1)—4) (2)—2) (3)—4) (4)—3)
9	高学年教材「海のいのち」—「クライマックス」の場面を見つけその根拠を語り合うことで「精査と解釈」の仕方を学ぶ。	(1)—1), 2) (2)—3) (3)—2), 4) (4)—4)
10	教材研究から学習指導案の作成へ①学習指導案のしくみを知る。	(1)—4) (3)—1), 2), 4), 5)
11	教材研究から学習指導案の作成へ②低学年教材「ニャーゴ」で教材構造図を作成する。	(1)—1) (2)—1), 2), 3)
12	教材研究から学習指導案の作成へ③低学年教材「ニャーゴ」で学習指導案を作成する。	(3)—1), 2), 3), 4), 5)
13	学習指導案の作成から授業実践へ①各自の作成した学習指導案で模擬授業を実施する。	(1)—4) (3)—4) (4)—1), 2), 3), 4)
14	学習指導案の作成から授業実践へ②各自の作成した学習指導案で模擬授業を実施する。	(1)—4) (3)—4) (4)—1), 2), 3), 4)
15	授業の総括—学習指導における評価の仕方、場面、手立て、結果の残し方等についてレポートする。	(3)—4), 5) (4)—1), 2), 3), 4)
成績評価 方 法	レポート（思考力・判断力・表現力）、対話への参加（関心・意欲・態度）40% 模擬授業での態度、学習指導案の作成（表現・知識・態度）60%	
テキストおよび 参 考 文 献	文部科学省「小学校学習指導要領解説・国語編」 和田征文・渡邊亮太編著「教育実習の研究」山口短期大学 「平成29年度小学校学習指導要領ポイント総整理・国語」吉田裕久・水戸部修治東洋館出版社	
メ ッ セ ー ジ な ど	今日的な教育課題の「アクティブ・ラーニング」を意識した授業展開 後期の教育実習に繋がる授業技術を実践的な形で学ぶ授業	